

的責任を十分自覚して事業活動を行っていかねばなりません。

沿線地域の活性化とともに発展を

SIAI . CSR報告書の大きな柱として、環境活動についての報告があると思いますが、環境についてはどのようにお考えですか。

佐藤 平成16年に当社全体で環境マネジメントシステムISO14001を取得しました。グループ会社においても環境マネジメントに関する取り組みを行っています。環境活動は継続して行っていきますし、より重要性の高い活動を洗い出し中です。環境、安全、安心というのは鉄道事業者として当然のことだと思います。「地球環境に優しい鉄道」と言われていますが、本当に実践できているかどうか、常に自問自答しながら活動しています。

SIAI . 鉄道事業を発展させていくこと自体が、社会全体から見れば、マイカー通勤等を減らし、環境に対する負荷を減少させることにもつながる効果があると思います。

他にも鉄道会社ならではのCSRとして、街づくり、地域の活性化があげられると思うのですが、そうした取り組みを教えてください。

佐藤 楠葉(大阪府枚方市)の街づくりと再開発があげられます。当社線の樟葉駅周辺は、もともとは郊外の湿地帯だったのですが、昭和40年代、住宅地「くずはローズタウン」をつくりました。当時は高度成長時代で、地方からたくさんの方がやってきて大阪で働いていました。住む人たちの住宅が不足し、住宅地が郊外へ広がっていきましたが、それに対して、鉄道会社は都心から郊外へ大量輸送を実現することが社会的使命でした。くずはローズタウンは当時の住宅地開発の最も大規模なもののひとつでした。また、昭和47年には日本最初のオープンモール、「くずはモール街」をつくり、買い物の利便を図りました。くずはローズタウンは全国的にも郊外開発の好例であったと思います。その後、年月を経て街が成熟し、住宅を買

っていただいた方も高齢になりました。くずはモール街も最新のものではなくなっていました。そこで、平成17年、モールを規模にして約4倍のものにリニューアルしました。また、超高層マンションを2物件建設し、住宅を約700戸供給しました。その結果、街が多世代化し、人の流れも再び活性化したのです。単に郊外にマンションと商業施設を作ることではなく、鉄道会社と住宅建設、駅前にモール、という長期にわたる街づくり。地域を活性化することは我々の務め、つまり社会的責任だと思っています。

SIAI . 最後に、CSR報告書の位置づけ、発行の意義をどのようにお考えですか。

佐藤 すべてのステークホルダーに向けて、分かりやすい内容でないといけないと思っています。また、コミットメント、約束であると思っています。きちっと守ることによって、守っているな、と思っていただける。そして従業員がCSR活動を点検するためのものでもあります。当社は沿線のお客さまへ「ファミリールールフェア」や「大津線感謝祭」といったイベントを開催しCSR活動の実践も行っていますが、まだCSRの意識は社員全員に完全には浸透していないと思っています。部署や社員一人ひとりによりCSRの意識には濃淡があります。それを、どうすれば全員が共有できるようになるか、日々心を砕いています。今後の課題です。

SIAI . 貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。



インタビューとともに

インタビュー紹介：中央左 新日本インテグリティアシュアランス(株)取締役 横田祐次氏
右端 同社シニアコンサルタント 西山久美子氏
左端 同社コンサルタント 廣永喜美代氏